



【 今回の試験について 】

あなたは訪問介護事業所で勤務するサービス提供責任者です。利用者が1日でも長く在宅生活を続けられるように、事業所で転倒についてのリスクや予防法の勉強会を実施することになりました。試験官を新人スタッフに見立て、講義と実演指導を行なってください。試験会場にはホワイトボードと必要物品が用意されています。

【 メモ 】

【 問題① 】

次の項目について講義を行なってください。＜設定時間／10分＞

- I：転倒によって引き起こされる心身への影響および高齢者が骨折しやすい部位について
- II：転倒が発生しやすい場所や転倒の原因（外的要因・内的要因）について
- III：下記 藤澤様の転倒リスクや予防方法について（リスクマネジメント含む）

【 問題② 】

訪問ヘルパーはトラブル発見時に迅速かつ的確な対応が求められます。訪問時、転倒している利用者を発見したことを想定し、次の項目について実演指導を行なってください。＜設定時間／5分＞

- I：転倒発見時の対応について
- II：頭部腫脹時と頭部出血時、それぞれの対応方法について

※注意事項／内容を判定でき次第、時間を短縮して試験を終了する場合があります。

【 事例 】

■ 藤澤 さつき様（女性）要介護度1

1年前に夫と死別し、現在は一人暮らし。掃除と入浴のためのヘルパーを利用することで何とか身の回りのことを自力で行い、生活しています。住居は一般的な日本家屋。家族は車で1時間程の他市に在住。

【 ADL 状況 】

移動：自宅内は杖もしくは、伝い歩きで歩行。

起き上がり：ほぼ自力にて可能だが、時折一部介助が必要な時もあり。

寝返り：自力で可能。

座位：安定しているが、30分以上の座位保持が難しくなっている。

視力：左目に白内障あり。

食事：簡単な自炊は可能。近所のスーパーで惣菜などを購入し、食事をとっている。

排泄：トイレにて排泄。

入浴：ヘルパーサービスを利用し、週3回入浴。

麻痺・拘縮：特に目立った麻痺や拘縮なし。

内服薬：眠前薬としてデパス錠を内服。

意思疎通・認知能力：あり。

特記事項：骨粗鬆症があり、腰椎圧迫骨折を発症。最近では、臥床時間が増え、下肢筋力が低下している。